

第2学年1組 国語科学習指導案

令和5年9月29日（金）第5校時

1 単元名・教材名 そうぞうしたことを、音読げきであらわそう 「お手紙」

2 児童の実態と本単元の意図

(1) 児童の実態

(略)

(2) 本単元の意図

本単元は、学習指導要領第1学年及び第2学年の「1 知識及び技能」の中の「(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項」の「ク 語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。」「2 思考力・判断力・表現力等」の中の「C 読むこと」(1)「カ 文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。」「エ 場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること。」を受けて設定している。

その際、「C 読むこと」の言語活動例「読み聞かせを聞いたり物語を読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動」を位置付ける。

身に付けさせる資質・能力

・ 叙述を基に、場面の様子や登場人物の行動など想像したことを音読で表現する力

指導にあたっては、三つの段階で指導を展開していく。

第1次では、導入において、想像したことを表すための音読劇を行うことを確認する。そのために必要な会話文(台詞)を読むときの声の大きさや抑揚、気持ちの込め方などを確認し、音読の工夫の仕方(音読記号)をまとめた「音読名人カード」を掲示し、クラス全体で共通理解しておく。音読劇という言語活動を通して技能的な面よりも「内容を捉えさせ、登場人物の行動を具体的に想像できるようにすること」(構造の内容と把握・精査・解釈)を目標とするために、「登場人物になりきる」という視点をもたせる。

第2次では、場面の様子や気持ちを想像し音読に生かしていくために、次の段階で学習していく。

まず、誰の台詞か分かるように会話文の上に登場人物を表すシールを貼ったり、主語を意識させて違う色でサイドラインを引かせたりして、視覚的に分かるよう工夫をする。

次に、登場人物の心情を台本に書き込み、話し合いながら音読で表現していくことを確認していく。登場人物の心情を読み取る手段として、挿絵に吹き出しをつけて文章と挿絵の両方から心情を考えるように促す。この際、かえるくんとがまくんの立場に分けて考えさせる。こうすることにより、場面ごとの登場人物の心情の変化や登場人物の人物像を読みとりやすくなると考える。また、毎時間のまとめとしてペアで音読劇を行う。読み取りの活動を通して見えてきた登場人物の心情や場面の様子を、音読の工夫や動作化を通して表すこと(考えの形成)ができるように指導していく。音読の工夫としては顔の表情や動きの他に、会話の際の二人の位置、距離、顔の向きなどを考えさせることで、二人の心情と心の通い合いを豊かに読み取り、表現させるようにしたい。この際、人物の気持ちや音読の意図を事前に伝えるようにし、聞く視点を与えるとともに、自分で気を付けることを意識できるようにする。

第3次では、今まで考えてきた音読の工夫を音読劇として表現し、他者の音読劇を聞くことで自分との違いや、友達の良さを共有させて、単元を通じた自分たちの高まりに気づかせる。

3 研究主題との関わり

研究主題『確かな学力と豊かな心を育てる国語教室』

～生きて働く力を育てる指導法の工夫～

本研究で目指す「確かな学力と豊かな心が育っている児童」とは、「生きて働く力を身に付けている子」である。「生きて働く力」とは、「学習の基本となる確かな国語力を身に付け(語彙力)、自分の思いや考えを、伝え合いや学び合いを通して広げ深める力(表現力)」と考える。そのためには、児童の実態を正しく把握し、年間を通して確実に指導事項が身に付くように、単元を通して付けたい資質・能力を見極め、言語活動を通して指導していく。

そこで、本単元では、次のような手だてを考えた。

仮説①

基礎的・基本的な知識・技能とその単元を通して付けたい資質・能力を明確にする。その力を付けるための言語活動を設定し、主体的に文章を読み、学ぶ楽しさを味わうことにより、確かな学力と豊かな心が育つであろう。

〈手だて〉 ○学習のゴールに向けて、主体的に学ぶための自分だけの台本作り

会話文の多い作品の特徴を生かして「そうぞうしたことを、音読げきであらわそう」というゴールを設定し、ひとつひとつの会話文の読み方を考えさせていく。ここで言う音読劇とは、登場人物の様子や行動を、声と簡単な体の動きとで表したものである。表すには、登場人物の行動を把握した上で、その時の表情、動き、気持ちを考え、音読を工夫する必要がある。教材文を登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むことが欠かせない。そこで、教科書とは別に台本を用意し、挿絵を活用して吹き出しに登場人物の気持ちを書いたり、その気持ちを表現するための音読の工夫を書き込ませたりして、音読劇に生かせるようにしていく。これらの活動を通して、登場人物の気持ちに迫り、人物像や行動の意味、気持ちなどを読み取る力をつけさせたい。

仮説②

相手意識・目的意識をもった学習活動を工夫する。協働的に学び合う場を設定し、互いの思いや考えをいきいきと伝え合い、考えを広げ深めることにより、確かな学力と豊かな心が育つであろう。

〈手だて〉 ○ICT 機器による録画機能を活用した学びの記録・共有

児童が音読している様子を録画したり、その動画を見返したりすることで、叙述から想像したことを表すことができているか試行錯誤しながら、何度も繰り返し練習させたい。また、単元の終盤で音読劇の練習をする学習活動においても、それぞれのペアやグループの音読の様子を確認し、学ぶ楽しさを味わえる場を設定していく。さらに、発表会においても録画したものを保護者に見せることを予告することで相手意識をもたせるとともに、各家庭で自分が主役となる音読劇を見てもらいたいという目的意識をもたせ、子供たちの学びへの意欲を高められるようにする。

登場人物の気持ちを表すための音読の工夫については、まず個人で考え、次に協働的に学び合える交流の場を設ける。そして最後に、互いの思いや考えを伝え合った成果を音読で表現する活動をする。この際、人物の気持ちや音読の意図を事前に伝えるようにし、聞く視点を与えるとともに、自分で気を付けることを意識できるようにする。この活動を場面ごとに繰り返して音読劇に生かしていく。

4 単元の目標

- (1) 語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読することができる。 (知識及び技能) (1) ク
- (2) 場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像することができる。 (思考力、判断力、表現力等) C (1) エ
- (3) 文章を読んで感じたことや分かったことを共有することができる。 (思考力、判断力、表現力等) C (1) カ
- (4) 言葉がもつよさを感じるとともに楽しんで読書をし、国語を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。 (学びに向かう力、人間性等)

5 本単元で取り上げる言語活動

- ・物語を読んで、内容を伝え合ったり、演じたりする。 (関連：言語活動例イ)

6 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読している。 (1)ク)	①「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。 (C(1)エ) ②「読むこと」において、文章を読んで感じたことや分かったことを共有している。(C(1)カ)	①積極的に、場面の様子に着目し登場人物の行動を具体的に想像して、学習の見通しをもって、音読で演じようとしている。

7 単元の指導と評価の計画 (全13時間)

次	時	主な学習活動	学習内容	指導上の留意点・評価
1	1	○アーノルド＝ローベルの「がまくん・かえるくん」シリーズの他の作品の本の読み聞かせを聞く。	○読み聞かせ ○人物像の把握	○児童が意欲をもって読書を進められるように、同じテーマの本を常設する。
	2	○学習計画・「そうぞうしたことを音読げきであらわそう」という単元のめあてを知り、学習の見通しをもつ。 ○「お手紙」を読み初発の感想を書く。	○学習の進め方 ○単元のめあて ○初発の感想 ○感想交流	○音読劇という言語活動を通して「内容を捉えさせ、登場人物の行動を具体的に想像できるようにすること」(構造の内容と把握・精査・解釈)を目標とするために、「登場人物になりきる」という視点をもたせる。 【主体的に学習に取り組む態度①】 <u>観察</u> ・単元の目標を知り、学習の見通しをもち、単元のゴールに到達するために必要な学習を考えているか確認する。
	3	○全文音読して、全体の文章構成・あらすじをつかみ、場面分けをする。 ○音読のめあてについて考える。	○場面分け ○時や場所の確認 ○今までの音読の想起	○挿絵をもとに場面分けをし、あらすじをまとめさせる。 【思考・判断・表現①】 <u>観察</u> ・場面の様子をとらえ、内容の大体を捉えているか確認する。
	4	○台本への書き込みの方法を知る。 ○音読劇をするために誰の会話文であるかに注意しながら全文を読む。	○台本への書き込み ○登場人物の行動と会話の整理	【知識・技能①】 <u>音読</u> ・語のまとまりに気をつけて音読をしているか確認する。
2	5	○お手紙をもらえないがまくんと、それを知ったかえるくんの気持ちを読み取る。 ○音読劇の練習をする。	○台本への書き込み ○読み方の話し合い	○台本に、登場人物の気持ちを想像して書かせる。 【思考・判断・表現①】 <u>ワークシート(台本)</u> ・登場人物について、どのような表情・口調・様子だったのかなどを具体的にイメージしているか確認する。

	<p>【1の場面】 場所：がまくんの家のげんかん前 (P12~P15L3)</p>	<p>○まとめの音読</p>	<p>【思考・判断・表現②】 <u>ワークシート（台本）</u> ・具体的に想像したことを伝え合い、お互いの思いを分かち合ったり、感じ方や考え方を認め合ったりしているか確認する。</p>
6	<p>○がまくんにお手紙を書くかえるくんのようすや気持ちを読み取る。 ○音読劇の練習をする。 【2の場面】 場所：かえるくんの家 (P15L4~P16)</p>	<p>○台本への書き込み ○読み方の話合い ○まとめの音読</p>	<p>【思考・判断・表現①】 <u>ワークシート（台本）</u> ・登場人物について、どのような表情・口調・様子だったのかななどを具体的にイメージしているか確認する。</p> <p>【思考・判断・表現②】 <u>ワークシート（台本）</u> ・具体的に想像したことを伝え合い、お互いの思いを分かち合ったり、感じ方や考え方を認め合ったりしているか確認する。</p>
7 本時	<p>○昼ねをしているがまくんとまどをのぞいているかえるくんの気持ちを読み取る。 ○音読劇の練習をする。 【3の場面】 場所：がまくんの家 (P17~P21L1)</p>	<p>○台本への書き込み ○読み方の話合い ○まとめの音読</p>	<p>○台本に、登場人物の気持ちを想像して書かせる。</p> <p>【思考・判断・表現①】 <u>ワークシート（台本）</u> ・登場人物について、どのような表情・口調・様子だったのかななどを具体的にイメージしているか確認する。</p> <p>【思考・判断・表現②】 <u>ワークシート（台本）</u> ・具体的に想像したことを伝え合い、お互いの思いを分かち合ったり、感じ方や考え方を認め合ったりしているか確認する。</p>
8	<p>○お手紙を読んでいるかえるくんとお手紙の話聞いたがまくんの様子や気持ちを読み取る。 ○音読劇の練習をする。 【3の場面】 場所：がまくんの家 (P21L2~P22L4)</p>	<p>○台本への書き込み ○読み方の話合い ○まとめの音読</p>	<p>○台本に、登場人物の気持ちを想像して書かせる。</p> <p>【思考・判断・表現①】 <u>ワークシート（台本）</u> ・登場人物について、どのような表情・口調・様子だったのかななどを具体的にイメージしているか確認する。</p> <p>【思考・判断・表現②】 <u>ワークシート（台本）</u> ・具体的に想像したことを伝え合い、お互いの思いを分かち合ったり、感じ方や考え方を認め合ったりしているか確認する。</p>

	9	<p>○お手紙を待っているがまくんとかえるくんの気持ちを読み取る。</p> <p>○音読劇の練習をする。</p> <p>【4の場面】 場所：がまくんの家 (P22L5～P23)</p>	<p>○台本への書き込み</p> <p>○読み方の話し合い</p> <p>○まとめの音読</p>	<p>○台本に、登場人物の気持ちを想像して書かせる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【思考・判断・表現①】 ワークシート（台本）</p> <p>・登場人物について、どのような表情・口調・様子だったのかなどを具体的にイメージしているか確認する。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【思考・判断・表現②】 ワークシート（台本）</p> <p>・具体的に想像したことを伝え合い、お互いの思いを分かち合ったり、感じ方や考え方を認め合ったりしているか確認する。</p> </div>
3	10 ・ 11 ・ 12	<p>○役割を決めて、登場人物の気持ちや二人の様子を想像しながら音読劇の練習をする。</p> <p>○気持ちが表れるような声の大小、速さ、間の取り方、表情や身振り、登場人物の目線や姿勢などに気を付けたアドバイスをする。</p>	<p>○担当する場面の練習</p> <p>○動作化</p>	<p>○これまでの学習を生かし音読の工夫を考えながら役割音読をさせる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【主体的に学習に取り組む態度①】 <u>観察</u></p> <p>・これまでの学習を生かし、単元のゴールである音読劇を行うため、場面を決めたり、役割を決めたり、音読の工夫を決めたりしているか、音読で演じようとしているか確認する。</p> </div>
	13	<p>○「そうぞうしたことをあらわそう！音読劇発表会」を開く。</p> <p>○良かったところを見つけ、手紙を書いて感想を伝え合う。</p>	<p>○音読劇の発表</p> <p>○感想の交流</p>	<p>○互いのよさを認め合うようにさせる。</p>

8 本時の展開 (7/13時間)

(1) 目標

場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像することができる。

(思考力、判断力、表現力等) C (1) エ

(2) 評価規準

「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。

【思考・判断・表現】

(3) 展開

学習活動	学習内容	指導の留意点 (○) 校内研修との関わり (★) 評価	時間
1 今月の詩を音読する。	○詩の音読	○事前に学級で考えた「音読記号」を意識させ、しっかりと声の大きさや速さを使い分けて音読させる。	2
2 前時の学習を振り返る。	○前時の学習の想起	○前時に上手に音読できたペアの音読劇を見せるとともに、学習を思い起こさせる。お手紙を待っているがまくんと急いで家に帰って手紙を書いたかえるくんの気持ちや、効果的な音読の仕方について確認させる。	3
3 本時の場面を確認する。	○一斉音読 P17~P21L1	○本時の挿絵を黒板に掲示し、本時の課題につなげる。	3
4 本時の学習課題をつかむ。	○学習課題の把握	○学習のめあてを声に出して読み、ねらいを明確に意識させる。	2
お昼ねをしているがまくんとまどからのぞいているかえるくんの気持ちをそうぞうしよう。			
5 動作から人物の気持ちを考える。	○気持ちを想像するための動作化	○「まどから見ました。」「まどからのぞきました。」などの行動から分かるかえるくんの気持ちを考えさせる。	5
6 挿絵から人物の気持ちを吹き出しに書き込む。 (1) 個人で考える。 (2) ペアで交流する。 (3) 全体で交流する。	○登場人物の様子や気持ちの読み取り ○同じ役割での交流	○二人の登場人物の会話から気持ちについて考え、どのような表情・口調・様子だったのかななどを具体的にイメージして、台本に書きこみをさせる。 ★どんな気持ちを想像できたか伝え合い、作業が進まない児童には友達の記事例を参考に考えさせ、考えを深めさせる。	15
<p>(期待される児童の反応) (がまくん) ・何で窓の外を見ているのかな。 ・不思議だな。 ・何を言っているのだろう。 ・まっているのはもういやだ。 (かえるくん) ・かたつむりくん、早く来ないかな。 ・かたつむりくんが待ちどおしい。 ・本当のことを言ってしまうのかな。 ・本当だよ。手紙、来るんだよ。 ・早くがまくんによるこんでもらいたい。</p>		<p>(評価場面) 【思・判・表①】 (評価方法) ワークシート(台本)の考察 ・登場人物の気持ちを想像して、想像した気持ちが書いている児童をB評価とする。 (「努力を要する」状況(C)への手立て) ・会話を音読するよう促し、音読した児童にどんな気持ちで読んだかを問いかけることで、話し言葉から書き言葉へ移行できるようにする。</p>	
7 音読の工夫を考え、音読する。 (1) 個人で書き込み (2) ペアで音読 (3) 代表児童の音読	○音読の工夫 ・声の出し方 ○音読 ○音読の聞き合い	○がまくんとかえるくんの気持ちを表すための音読の工夫を考えさせる。 ○音読記号を使い、音読の工夫を台本に書き込ませる。 ○読む速さ、間の取り方、声の強弱を変えることによって、心情の変化を表現できることを理解させる。 (例：怒り→強く、優しさ→ゆっくり等) ○想像した登場人物の気持ちが伝わるよう	8

<p>8 本時の学習のまとめ をする。</p>	<p>○本時のまとめ</p>	<p>に工夫して音読させる。 ★ペアで役割音読をしながら、想像したことを生かした音読を発表し合う。その後、何組か発表させ全体で共有し、よかったところを交流することでさらに読みを深めさせる。 ○想像したことあらわすための音読の工夫をまとめさせる。</p>	
<p>がまくんは手紙を待つことにあきあきした気持ちで、かえるくんは早くがまくんによろこんでほしくてあせっている気持ち。</p>		<p>5</p>	
<p>〈期待される児童のまとめ〉 ・がまくんは手紙がなくてふてくされた気持ちで、かえるくんはいつ来るかしんばいしている気持ち。</p>			
<p>9 本時の学習を振り返る。</p>	<p>○本時の学習の振り返り ○次時の学習の見通し</p>	<p>○本時の学習を通して、登場人物がどのような表情・口調・様子だったのかなどを具体的にイメージして想像することができたか、想像したことを音読に生かしてなりきって音読できたか、などを振り返らせる。 ○上手に音読できたところを褒め、次時の学習への意欲をもたせる。</p>	<p>2</p>
<p>〈期待される児童の振り返り〉 ・かえるくんのそわそわする気持ちをそうぞうすることができました。 ・がまくんのあきらめている気持ちをそうぞうすることができました。</p>			

8 板書計画

<p>ふ</p> <p>③ がまくんは手紙を待つことにあきあきした気持ちで、かえるくんは早くがまくんによろこんでほしくてあせっている気持ち。</p>	<p>教材文（台本）</p> <p>がまくん</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ まっているのはもういやだ。 ・ かえるくんは何でまどの外を見てるのかな。 ・ かえるくんのようすがいつもとちがうな。 かえるくん ・ かたつむりくんが手紙をとどけにくるのがまちどおしい。 ・ 早くがまくんによろこんでもらいたい。 ・ 本当のこと言おうかな。 	<p>④ お昼ねをしているがまくんと、まどからのぞいているかえるくんの気持ちをそうぞうしよう。</p> <p>「お手紙」</p> <p>アーノルドローベル</p> <p>そうぞうしたことを、音読げきであらわそう</p>
--	---	---

